

令和4年度学校評価報告書

1 本年度の重点目標

- (1) 自ら学び、自らを伸ばす意欲と態度を育てる
- (2) 進んで規則を守り、責任を果たす生活習慣を育てる
- (3) 自己理解を深め、自ら自己実現を図る進路意識を育てる
- (4) 自他の生命・人格尊重と思いやりの心を育てる
- (5) 公德心を育てる

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	今年度からICTを活用した授業を展開するよう全教科で取り組んだ。また、指導と評価の一体化を進め、生徒目線で分かり易い授業を心がけた。	スクール・ポリシーが策定されたことに伴い、生徒や保護者、地域住民の願いを踏まえた実践になっていると実感する学校関係者が増加している。特に、SCや外部関係機関などと連携して、充実した学校教育活動がなされているとの講評があった。
改善方策	生徒の可能性をさらに引き出すために、ICTを活用し個別最適な学びと協働的な学びの一体化を進めながら、次年度も学習評価（評価規準・評価基準）に関する見直しを図るとともに指導と評価の一層の充実を図り、授業改善を進めて行く。	
進路指導	1年生の早い段階からキャリア教育に取り組んだ。地元企業の方からの講演を実施したり、生徒の自己理解を深化や進路意識の高揚を図るための面談等を実施した。また、インターンシップは可能な限り生徒の要望に応じた企業で実施した。就業時のミスマッチを防ぎ、職業適性など理解を深め、生徒の意識付けに大いに役に立った。	生徒と保護者の感じ方に温度差のある項目がある。資格取得や職業教育にしっかりと取り組んでいる事実はあるが、進路たよりなどが保護者まで届いていなかったり、家庭で進路に関する話題が少ないための取得情報の差であろう。
改善方策	保護者に必要な情報を提供できるようにメール等を活用して進路関係の情報を得られるようにする。また、キャリア教育の視点で再構成した「進路の手引き」を充実させつつ、キャリア・パスポートの作成に繋げていきたい。	
生徒指導	定期的な面談を実施して生徒理解に努めた。また、生徒が抱える悩みや問題の早期発見及び適切な指導を実施することに努めていたが、家庭との連携が十分ではないと感じている。	生徒や保護者は本校に入学して良かったと評価しているが、目標を持って学校生活を送れたかについては、意見が分かれる結果となった。また、学校評議員からは事故防止対策について、外部機関と連携した組織的対応を進めるべきとの意見があった。
改善方策	教職員は例年（新型コロナウイルス感染症蔓延前）と比較した相対評価になっているため、不十分と感じてしまう傾向にある。現状を客観的に把握し、問題点を洗い出し、改善して、生徒にとって有意義な生活環境を構築したい。	
特別活動	コロナ禍のため、ボランティア活動など、学校行事に多くの制限が課せられ、充実したものとは言えなかったと感じている。それでも、感染リスクの低減に努めながら、前年度よりも充実した内容に努めた。	ここ数年部活動の加入率が少ない傾向となっている。また、せっかく入部しても部活道参加に対する意欲は個人差があり、途中でやめてしまう生徒も少なくない。学校外での教育活動では、学校評議員からご支援やご助言いただきながら円滑に進めることができた。
改善方策	ウイズコロナを意識した特別活動の在り方を改めて検討し、スクール・ポリシーを基に新しい学校行事の在り方（存続・廃止・新規）を考えて行きたい。また、各種の学校行事を通して、コミュニケーション力や進路実現力を意図的、計画的に身に付けさせていきたい。	